

「城下町まちづくりへの実地参加を通じた、地方都市活性化リーダーの育成」

活動報告書

2011年3月7日

デザイン工学部都市デザイン研究室 高見公雄

1. 活動の目的

地方都市中心市街地の衰退は深刻なものがある一方、総人口の1/2が暮らす大都市圏にいと、その実感はない。地方都市中心市街地活性化のための特効薬はなく、意識の高い人材を一人でも多く育て、実地で活動するよう図ることが実効的である。当ゼミによる今回の活動は、このような問題意識に基づき、都市整備の専門家となるべき当学科の学生に市民まちづくり活動として、山形県鶴岡市のNPO法人城下町トラストの実地体験をさせることで、地域リーダーの卵を育成することを目標とする。

2. 活動内容、活動計画

1) 当活動の狙いと実効性

指導教員（高見）は、鶴岡のまちづくりについて、市の各種計画づくり並びに地元団体の諸活動の支援などを20年にわたり続けてきている。当ゼミは都市デザインを単に形ではなく、市民のまちづくり活動を含むハード・ソフト総体のものと指導している。現在、まちの身近な魅力を高め地域の底力を上げていくことが急務であり、地域リーダーとなるには、市民まちづくりの方法や活動などを肌で感じないとならない。前記NPO法人の活動に関しては、これまでも係わったことがあり、主要メンバーとは懇意にしている。当活動はこのように、受入れ先と活動内容が明確なものであり、目標に向けた活動の実効性が高いものと言える。また、鶴岡市中心に立地する東北公益文科大学大学院でまちづくり活動を展開している高谷ゼミとも交流をはかる。

2) 活動内容

当活動の主イベントは9月初旬に鶴岡に出向き、活動に参加することであるが、それまでの4ヶ月余り、毎週ゼミの場において、地域リーダーに関する意義などを学ぶ。活動予定を要約すると以下となる。

- ・ 5月～8月の毎週：ゼミにおけるまちづくり活動の学習
- ・ 9月初旬：山形県鶴岡市において地元NPOのまちづくり活動に参加
- ・ 9～10月：活動報告まとめ

3. 実地参加の概要

1) 現地活動の行程と立案

現地における行動計画とその内容については、NPO法人城下町トラストのメンバーでかつ鶴岡

市役所の職員である早坂氏が中心となりまとめた。鶴岡は近年藤沢周平の映画等で名を挙げているものの、本来徳川四天王の酒井家の城下としての気位が高いまちである。したがって観光に依存するといった姿勢が比較的弱い地域であるが、今回の交流は、次年度以降に予定されている「歴史まちづくり法」に基づく町おこしが視野にあったため、珍しく歴史を訪ねる行程も多く含まれた。前日の行程には担当教員の旧知である鶴岡市副市長への表敬訪問も含まれている。

地元において作成頂いた予定表を図-1に示す。

■ 日時: 平成22年9月9日(木) 9:00~ (座学9:00~10:30 フィールドワーク10:30~15:00 ワークショップ15:15~18:30 懇親会18:30~21:00)						
■ 場所: 鶴岡市研修会館 和室研修室						
次 第						
進行: 都市計画課 菅原史恵						
1	開 会		所要	開始	終了	
2	挨拶・活動紹介	法政大学教授	高見公雄	10	9:00	9:10
3	自己紹介・グループ編成			15	9:10	9:25
4	座 学					
	鶴岡のまちづくりについて 高橋兼吉「擬洋風建築と現代建築が コラボした町並み」	鶴岡市 建築課 課長補佐	早坂 進	15	9:25	9:40
	鶴岡公園周辺の歴史について ～ 明治維新と文明開化 ～			30	9:40	10:10
	質疑応答			15	10:10	10:25
5	鶴岡公園周辺 フィールドワーク(自転(テーマ) 車 20台)					
	致道博物館	西郷隆盛と酒井藩の 関わり、高橋兼吉	ボランティア	40	10:45	11:25
	藤沢周平記念館		施設説明員	30	11:30	12:00
	大寶館(内覧)		施設説明員	30	12:00	12:25
	昼食(ゴーゴー亭)			60	12:30	13:30
	アートフォーラム(外観)					
	致道校 致道館	西郷隆盛と菅実秀の 会談	説明員	30	13:30	14:00
	鶴岡カトリック教会天主堂(外観)					
	丙申堂(内覧)		ビデオ説明	30	14:15	14:45
	鶴岡ホテル(内覧)	原敬	國井美保	30	15:00	15:30
	三浦屋(外観・説明)		國井美保		15:40	
	新茶屋(内覧)	日本庭園(金峰在 杯)副島種臣「鹿鳴」			15:45	16:00
6	ワークショップ(歴史物語・景観ガリ バーマップ)					
	① ガイダンス			10	16:15	16:25
	② グループワーク			75	16:30	17:45
	③ グループ発表	10分×3グループ	各班	30	17:45	18:15
	④ 講 評		高見公雄	15	18:15	18:30
7	閉会					

図-1 現地活動のスケジュール

2) 主な内容

① 座学において鶴岡のまちづくりの説明を受ける

- ・鶴岡市建築課より鶴岡市が進めるまちづくりの説明を受けるとともに、NPOメンバーより鶴岡城址である鶴岡公園および周辺の歴史資源などについての説明がなされた。

② 自転車によるフィールドワーク

- ・市内に整備されているレンタルサイクルと市役所所有の自転車を借り受け、総勢30名ほどで小さな鶴岡の中心部を自転車によりめぐった。要所要所で見学並びに説明を受け、営業中の歴史的ホテルの客室や浴場まで入れて頂いた。

③ まちづくりワークショップ

- ・ゼミ生、NPOメンバー、市役所職員を3グループに分け、フィールドワークを踏まえたまちづ

くり提案を大きな地図上にまとめた。



(城下町を自転車で巡る)



(ワークショップの講評を受ける)

4. 成果と今後の展望

1) 地方都市の現実を目の当たりにした衝撃

- ・狙い通り大都市圏で生まれ育った学生達は、地方 10 万人都市の中心市街地の実情を見て衝撃を受けていた。また、公共交通がまったくないため、NPOから提供頂いた宿泊所から日用品を求めただけで、場合によってはタクシーを呼ぶことになる交通環境には考えこんでいた。

2) まちづくり人の元気にびっくり

- ・一方NPOメンバーは学生達より年齢が高いにもかかわらず元気で、フィールドワーク後半など学生達がばてているのに、地域の人々が元気そのものであること、それは自分たちのまちが好きだから、見学者をもてなしたいから、といった真意を理解し、それらの人のパワーにびっくりしていた。

3) 活動の成果

- ・自らの目で地方都市を見て、自家用車がないと何もできない交通環境を体験し、けれどもそこに活動する人々の元気かつ意欲的な姿に接することで、当初もくろんだ実地体験による問題意識を高揚には一定の成果があったものと考えている。アウトカム指標として示したまちづくり団体への加入という点では、任意団体である「都市環境デザイン会議」への学生会員としての入会という形で達成されている。

4) 次の行動

- ・ゼミ生は入れ替わるため、再度鶴岡を訪れ、「歴史まちづくり法」を活かしたまちづくりがどうなっていくかを見るのも一つの方法であるが、大学院生など今年参加した学生にとっては新鮮味がないかもしれない。担当教員にとって鶴岡市はライフワークであるから離れることはないが、次年度はちがう形で頑張っている他の地方都市を対象に、少し切り口を変えた活動を企画してみるのも意義あると考えている。

「城下町まちづくりへの実地参加を通じた、地方都市活性化リーダーの育成」 学 生 報 告 書

2011年3月7日

都市デザイン研究室 10U2102 内田健太、07N2101 矢嶋聡

〔9月8日〕

1. 鶴岡市副市長表敬訪問

初日はJR新幹線利用で新潟を經由して鶴岡着。足がないのでレンタカーを借り、市役所を訪れ先生と旧知の山本副市長を訪ねる。副市長は学生にまちづくりの重要性を熱く語り、特にゼミ生のうち市役所への就職が決まっているメンバーに対し、期待するぞと声をかけてくれた。

2. 鶴岡西部土地区画整理事業地区見学

先生が計画、設計に携わったという鶴岡西部土地区画整理事業地区を見学した。広い道路に人影はまばらだが、スーパーマーケットの中はある程度賑わっている。地方都市の郊外とはこういうものだというところを感じた（図1）。



図1 鶴岡西部地区のまちなみ

〔9月9日〕

3. NPO法人城下町トラストとの共同活動

1) フィールドワーク概要

・フィールドワークは、最初に市の研修会館において説明を受け、その後まち歩き、そしてディスカッション、ワークショップという順番で進んだ。

1、まち歩き



2、ディスカッション

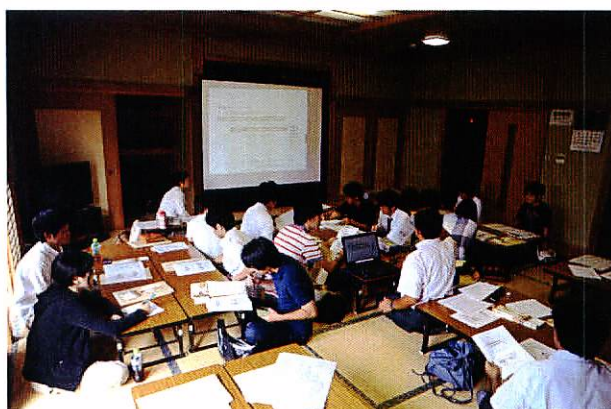


図2 説明を受ける

案内して下さった方々
・鶴岡市役所職員
・NPO法人 城下町トラスト
・東北公益文化大学大学院生

2) まち歩きルート

- ・まち歩きは自転車を利用し、図3に見られる鶴岡公園を中心としたルートで、自転車利用で5時間ほどかかった。最後の方、学生はばてばてであった。



図3 フィールドワークのルート

3) まち歩き、見学地（一部）

- ・致道館、文化2年（1805年）に9代酒井藩主創設した学校。
- ・丙申堂（旧風間家住宅）、明治29年に風間家当主が住居及び営業の拠点として建築したもの。



4) ディスカッション

- ・研修会館に戻り、まち歩きを通して、法政大学学生、NPOメンバー、地元の東北公益文化大学大学院生、市役所職員が3つのグループに分かれ、
 - ◆ [課題1] この町の物語（魅力）をどこに置くべきなのか
 - ◆ [課題2] この町の都市景観の魅力を向上させるにはという課題で議論を交わした。

5) ワークショップ

- ・ディスカッションを踏まえ、半日～1日かけて鶴岡市内を観光するならどのようなルートを選ぶか、鶴岡の活かすべきところ改善するべきところ、を提案としてまとめ、発表した。

院生
学部生
鶴岡市役所
NPO鶴岡城下町トラスト
公益文化大学

を含む3グループ



図4 ワークショップの状況

6) まとめ

- ・地方都市の実情を身をもって感じることができた。
- ・地元の方々との交流を通じて地域密着型まちづくりについて考える良い機会になった。